

記者発表資料

7月13日～7月14日の大雨による松原ダム・下笠ダム洪水調節の効果について

◆筑後川水系松原ダム・下笠ダムの上流域において、7月13日4時から14日20時までの総雨量は350mm、14日8時に57mmの時間最大の雨量を観測し、両ダムへの最大流入量は毎秒約2107立方メートルに達しました。なお、過去10年間では下笠ダムは1番目、松原ダムでは2番目に大きい流入量となります。

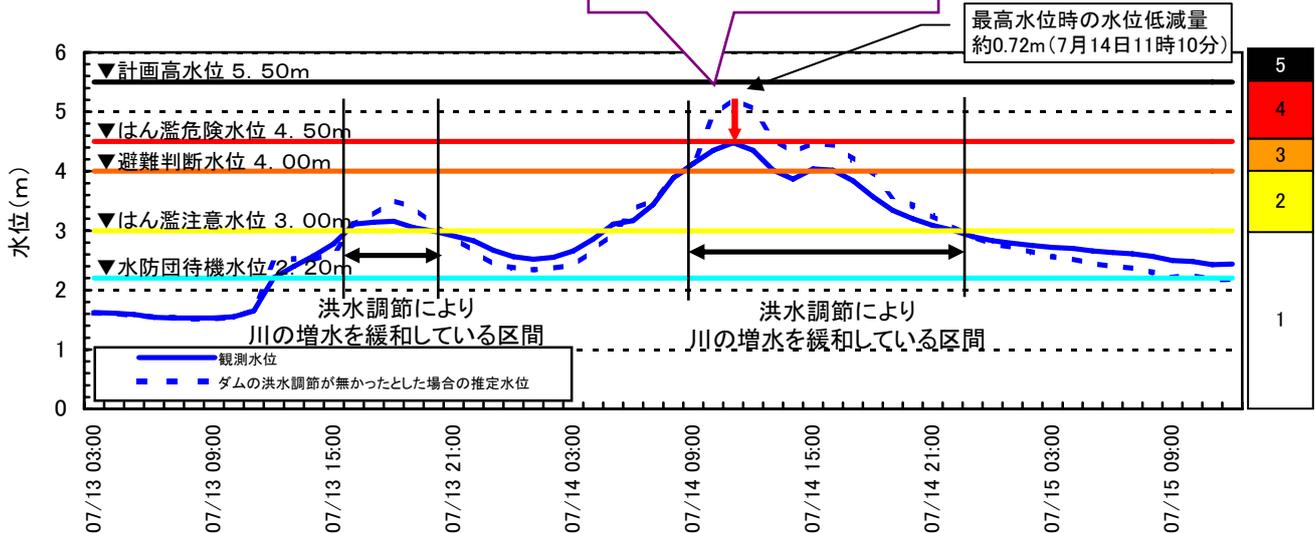
◆松原ダム・下笠ダムの洪水調節(ダム下流河川の増水を緩和させる操作)  
松原ダム・下笠ダムへ流れてくる水量の一部(約2805万立方メートル)を両ダムへ貯めることで、ダム下流へ流す水量を最大で約7割(毎秒約1478立方メートル)低減しました。

◆松原ダム・下笠ダムの洪水調節の効果  
この操作により、ダム下流の小淵水位観測所地点においては、今回の大雨による河川の最高水位を約0.72メートル低下させ、はん濫危険水位以下に低下させる効果があったものと推測されます。

【松原ダム・下笠ダムの効果】

■河川の水位〔小淵水位観測所：日田市〕

ダムによる洪水調節がなかった場合、小淵地点では、氾濫危険水位を約3時間30分超え、浸水被害が生じた可能性があります。

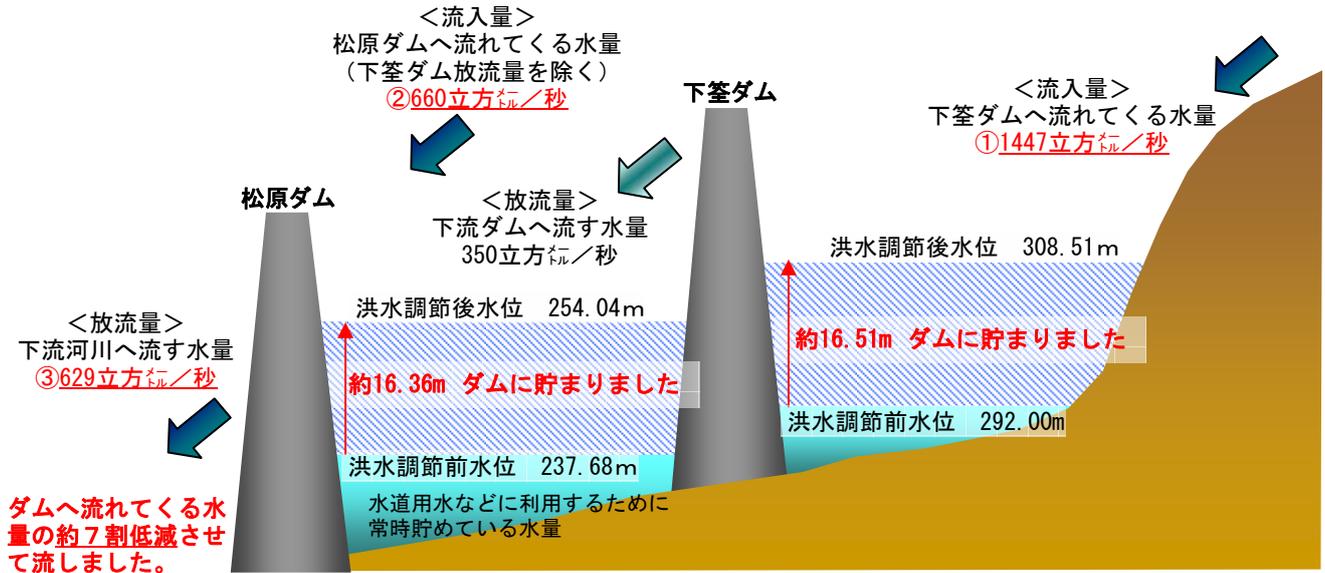


H24.07.14 10時00分 小淵水位観測所



参考説明資料

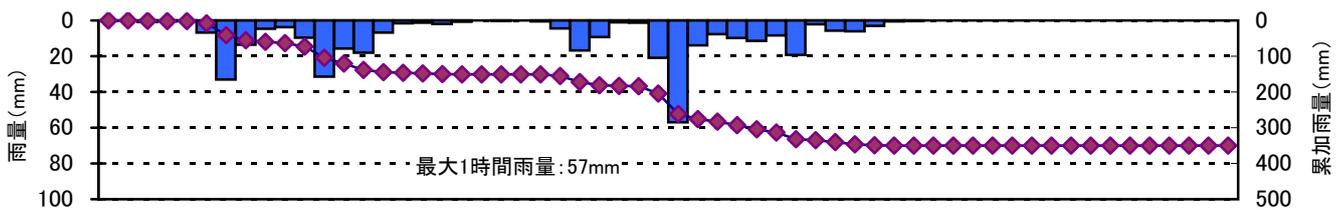
【①松原ダム・下笠ダムの洪水操作概要図】



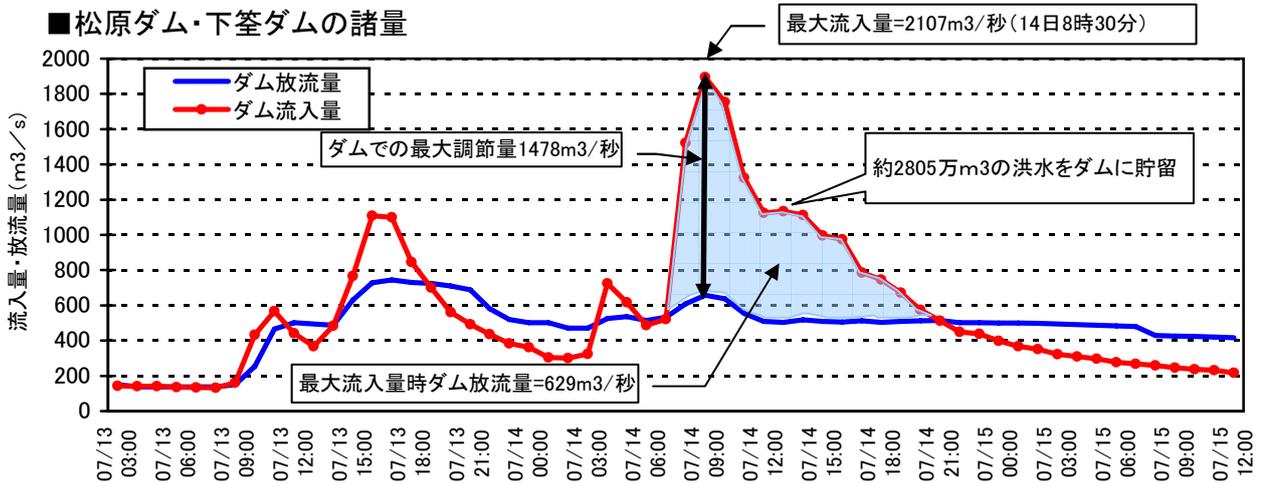
＜約7割≒ $1 - ③ \div (① + ②)$ ＞

■降雨量(ダム上流域雨量)

降り始めからの総雨量  
350mm(ダム上流域平均)



■松原ダム・下笠ダムの諸量



松原ダム

下笠ダム



【ダムの諸元】

ダム名	松原ダム	下笠ダム
形式	重力式ダム	アーチ式ダム
堤高	83.00メートル	98.00メートル
堤頂長	192.00メートル	248.23メートル
総貯水容量	5,460万立方メートル	5,930万立方メートル
有効貯水容量	4,710万立方メートル	5,230万立方メートル
洪水調節容量	梅雨期	4,580万立方メートル
	台風期	760万立方メートル
		220万立方メートル

【②松原ダム・下笠ダム周辺状況】

松原ダム・下笠ダムの洪水調節中の状況

(松原ダム 洪水調節前の貯水位)



(松原ダム 洪水調節中の貯水位)



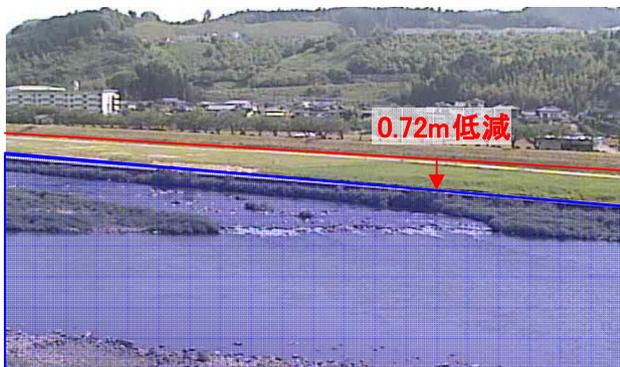
(下笠ダム 洪水調節前の貯水位)



(下笠ダム 洪水調節中の貯水位)



(日田市小湊の小湊水位観測所付近平常時の状況)



ダムで河川の水量を調節  
しなかった場合の推定水位 5.21m

今回の大雨での観測最高水位 4.49m

松原・下笠ダムの洪水操作により河川の水量を調節したことによって、  
筑後川の小湊水位観測所地点で約0.72m河川の水位を低減させたと推測しています。